

# 令和2年度 第20回 社会科課題追究学習作品展（報告）

令和2年11月  
学校支援課

## 1 作品展・表彰式について

- (1) 作品展：10月24日（土）～10月25日（日） 中止  
 (2) 表彰式：10月25日（日） 中止

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として中止した。

- ・最優秀賞、優秀賞受賞者について、当該校を通して賞状及びトロフィーを授与した。
- ・入選の25名については、当該校を通して賞状を渡した。
- ・入賞者全員に副賞を渡した。



## 2 応募作品について

### (1) 応募・取組状況

	応募作品数				取組作品総数			
	小学校	中学校	高校	合計	小学校	中学校	高校	合計
<b>R2</b>	<b>201</b>	<b>56</b>	<b>4</b>	<b>261</b>	<b>317</b>	<b>65</b>	<b>202</b>	<b>584</b>
<b>R元</b>	1,001	282	2	1,285	3,497	1,525	73	5,095
<b>H30</b>	1,047	261	3	1,311	3,184	1,626	10	4,820
<b>H29</b>	869	214	3	1,086	3,268	1,598	392	5,258
<b>H28</b>	664	51	5	820	3,191	1,533	613	5,337

- ・社会科の授業を活かした作品が、県内全体に広がりつつある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として夏季休業期間が短縮されたことにより作品数が大幅に減少した。

### (2) 作品の傾向

<p>&lt;全体の傾向&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業期間が短縮されたが、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、マスクを着用して「3密」を回避したり、電話やオンライン会議等で聞き取り調査を進めたりして、調査活動を工夫する児童生徒の姿が多く見られた。</li> <li>・テーマに対して複数の場所を訪れたり、過去と現在を比較したりして、社会的な見方・考え方を働かせて調査したことを考察している作品が多い。</li> <li>・「防災」や「SDGs」、「コロナ禍の影響」等、現代社会が抱える諸課題について取り上げたテーマが多く、自分が身近な生活から取り組めることを考えたり、行政の取組に注目し、主体的に社会参画しようとしたりする作品が見られた。</li> </ul>
<p>&lt;小学校低学年、中学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が行っている米作りやごみステーション等の身近な場所の調査など、体験活動を重視している作品が多く、調べる中で新たな疑問が生まれ、さらに追究を深めるといった探究心が感じられる。</li> <li>・自分の家族や公共施設等で自分の生活に関わる場で働く人々など、発達の段階に応じた取材活動が進められ、人々の願いや努力・工夫が踏まえてまとめられている。</li> <li>・プラスチックごみの行方や廃線となった鉄道路線など、身近な生活における疑問を解決するために、関わりのある場所などを自分から探究しながら訪れて調べている。</li> </ul>
<p>&lt;小学校高学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学調査や関係者へのインタビューなど、複数回行って情報を収集し、それぞれの事実を総合しながら課題解決に取り組もうとする作品が多い。</li> <li>・今年度より、小学校6年生の初めに政治に関する内容の学習が始まり、地方公共団体の具体的な施策に注目して取材するとともに、主体的に社会参画しようとして自分のできることを考えていた。</li> </ul>
<p>&lt;中学校・高等学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs や海洋汚染などの地球規模の諸課題や新型コロナウイルス感染症の影響、NHK 大河ドラマをテーマにした歴史的な事象など、多面的・多角的な考察が必要なテーマを選んで追究に取り組んでいる。</li> <li>・地理的な見方・考え方や時間的な見方・考え方など、自分で視点を変えながら、実際に歩いて調べた身近な地域について地域的特色を捉えている。</li> </ul>